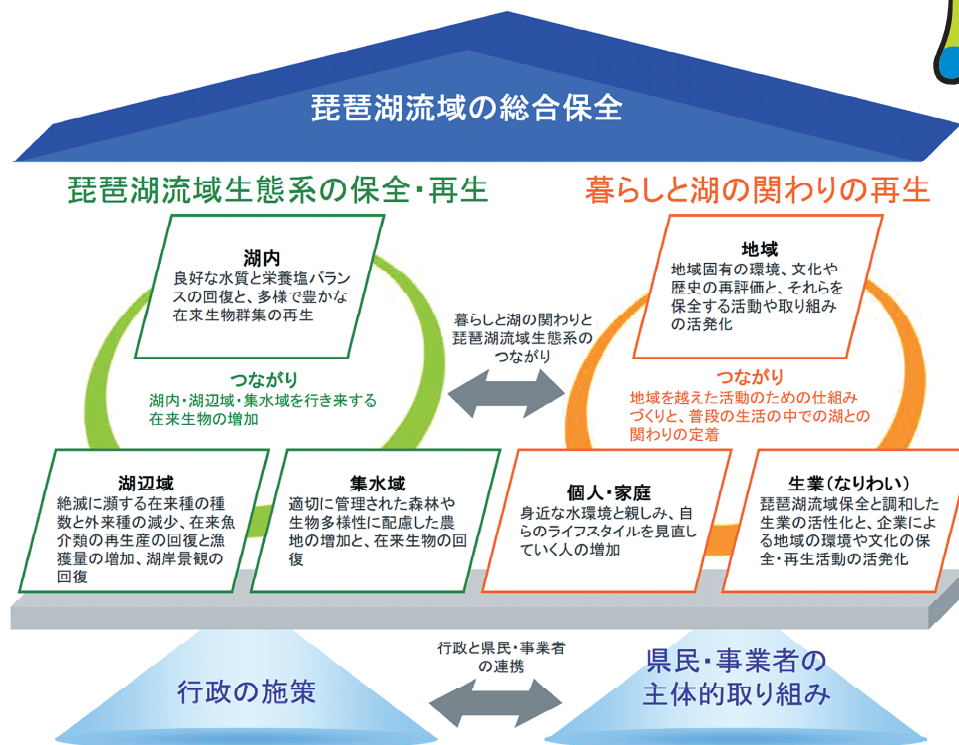


## ①新たな計画の方向性

人の暮らしは琵琶湖とつながっているんだね。



第2期では、琵琶湖とその集水域全体を一つの系(システム)として捉えます。森から里へ、そして湖へと流れていく水がもたらす様々な恵みが、安定して持続的にもたらされるよう、第1期で設定した「水質保全」「水源かん養」「自然的環境・景観保全」の三つの柱を「琵琶湖流域生態系の保全・再生」としてまとめ、一体的に取り組みます。

取り組みに当たっては、琵琶湖流域を「湖内」「湖辺域」「集水域」の3つの場に分け、それらの「つながり」と合わせてそれぞれに目標と指標を設定します。

また、私たち人間も琵琶湖流域生態系の一員です。したがって、琵琶湖流域生態系の保全・再生のためには、湖への関心や理解を深め、自分自身の暮らしのありようを見直し、ライフスタイルを変えることが必要です。このことから、第2期では新たな柱として「暮らしと湖の関わりの再生」を位置づけます。

取り組みに当たっては、「個人・家庭」「生業(なりわい)」「地域」の3つの段階に分け、それらの「つながり」と合わせてそれぞれに目標と指標を設定します。